

膵がんの高線量放射線治療を実現するゲル型スパーサの事業化

S2-226107

株式会社Medseed
代表取締役：吉田 泰之



ビジョン

- 膵がんは、がん種の中でも特に予後不良であり、5年生存率は8.5%と極めて低い難治性腫瘍である。現在、膵がんに対して根治が期待できる治療法は外科的切除に限られているが、切除不能例や手術を選択しない患者は40%以上を占める。近年、高線量放射線治療において、外科手術に匹敵する生存期間が報告されている。しかし、膵臓は消化管等の正常臓器と近接しているため、正常組織への放射線照射に伴う合併症リスクが高いという課題があり、膵がんを高線量放射線照射が適応可能な患者は非常に限定的である。ゲル型スパーサの事業化により、低侵襲かつ安全性の高い高線量放射線治療の適用を拡大し、膵がん患者の予後改善および生存期間の有意な延長が期待できる。

市場性

- 膵がん患者と市場規模：日本・米国・EU計で631億円、患者数は計19万人と推定（2031年）
- そのうち、「手術不適用・十二指腸浸潤無し症例」は速やかに市場獲得（膵がん全体のうち28%）
- 「外科手術を代替するエビデンス」が得られれば、膵がん全体の35~40%程度の市場獲得を見込む。
- 膵がんでの有効性確認後、切除不能な他臓器がん（再発大腸がん・再発子宮頸がん）への展開予定

新規性・優位性

- 膵がんでもっとも患者数が多い膵頭部がん（7割以上）に使用可能なスパーサは世界初
- 延命・症状緩和・手術の補助療法を目的とする化学療法や緩和治療に移行せざるを得ない膵がん患者に対し、低侵襲で根治可能な治療法選択が可能となる。

連携への関心

【連携に関心のある業種】

医療/検査（機関）・エレクトロニクス/デジタル・バイオテック/創薬支援・機械/装置・CMO/CDMO/CRO/SMO・医療/診断/分析（機器）・ベンチャーキャピタル

【連携に期待する事】

臨床試験の実施、製造における連携、販売提携、スタートアップ支援、共同研究開発

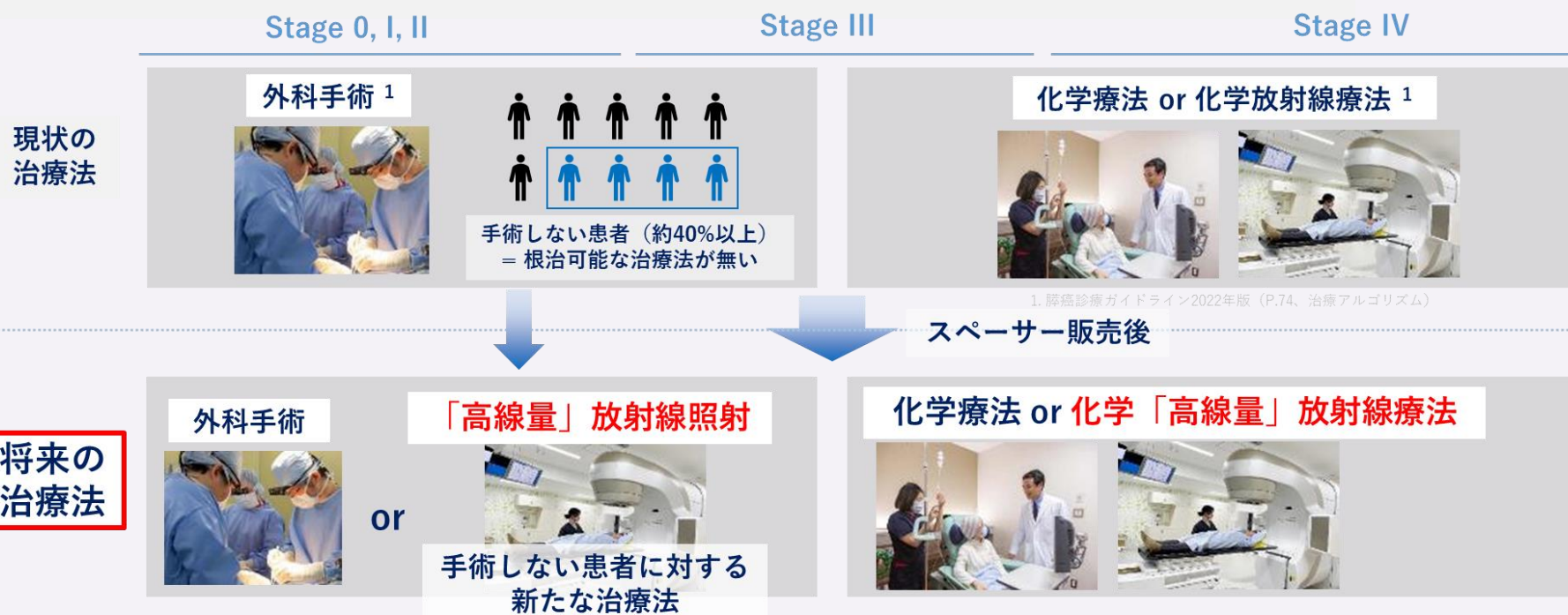
研究概要

Key Words: #医療機器・器具

膵がん高線量放射線治療ゲル型スパーサにより

- 治療の低侵襲化
 - 膵がん局所制御率の向上
 - 生存期間の延長
- を実現する。

- ① Stage I, II, IIIで手術しない膵がん患者 ⇒ 治療法の低侵襲化、生存期間の延長
- ② Stage IV膵がん患者 ⇒ (薬剤併用) 膵がん局所制御率の向上、生存期間の延長



高線量・放射線治療：課題・解決策

